

資料4

ふれあいの場・居場所づくり・世代間交流に関する調査結果

団体名	調査① ふれあいの場・居場所づくり・世代間交流に関する活動を実施していますか？	調査② （調査①で実施している場合、）どのような活動ですか？	調査③ （調査①で実施している場合、）活動の中で課題として感じていることをご記入ください。	調査④ 他団体との協力や連携の事例があればご記入ください。	調査⑤ 今後、地域で求められる「ふれあいの場」や「世代間交流」のあり方について、重要だと思うことは何ですか？	調査⑥ ふれあいの場・居場所づくりを進めるうえでの課題として、特に大きいと考えるものは何ですか？	調査⑦ 調査⑥を解決するために必要だと思うことや実際工夫していることがあればご記入ください。
松戸市社会福祉協議会	実施している	15地区社会福祉協議会の事業として、主に高齢者を対象とした「ふれあい・いきいきサロン」や「会食会」、子育て中の保護者同士の交流と地域の繋がりを目的に「子育てサロン」、多世代の交流を目的として「ふれあい広場」や「市民運動会」などを開催しています。	地区を支える地域住民の担い手不足と参加者が固定化していることは、課題として認識しています。 また「ふれあい・いきいきサロン」に来ることができるのは、比較的元気で外出意欲のある高齢者です。引きこもりがちであったり、心身に不安を抱えていたりする高齢者ほど、サロンの情報が届かなかったり、参加へのハードルが高かったりします。	地区社会福祉協議会では、健康・防犯・防災・法律などの情報提供として病院、警察、行政、法律家などに講演を依頼し、サロンやイベントを開催している。 また中学生がボランティアとしてふれあい広場や子育てサロンに参加してもらい、小学生とお花を育てて地域の高齢者施設や保育園に寄付を行っています。	・気軽に立ち寄れる場所 ・相談や支援につながる機能 ・世代間交流ができる機会	・拠点となる場所が不足している ・担い手・人材不足 ・世代間の関心やニーズの違い ・安心して受け入れられる居場所だけでなく、社会参加（例えば就労）の形の中で、人間関係を構築する経験を体験できる居場所も必要であると思います。	拠点となる場所の不足に関しては、町会や自治会の場所をお借りしている実施している地区社協もあります。 担い手不足の解決のために必要なこととして、地域貢献（CSR）に関心のある企業に相談、協力依頼や、学生ボランティアの協力を大学等に依頼することが考えられます。またミニ四駆（40～50代のおもちゃ）を使った新しいイベントを開催し、子育て世代との繋がりを持てるイベントを行っています。 世代間の関心やニーズの違いに関しては、ターゲットを明確にすることも重要ですが、企画段階から多世代が参加できる環境が必要だと思います。
松戸市町会・自治会連合会	実施している	松戸市総合福祉会館にて年6回、子どもから大人まで楽しめるゲーム・ボッチャや懇談会、軽食も用意し、ワークステーションも開催（若い世代の制作活動等）	担い手不足（運営スタッフやボランティア等）	地区社協 町会・自治会 松戸市役所 と連携	・気軽に立ち寄れる場所 ・世代間交流ができる機会 ・趣味や学びの活動	・担い手・人材不足	町会の掲示板やチラシで周知（ボランティア等や参加者募集として） 学校（ボランティア等や参加者募集）や幼稚園等（参加者募集）で周知
明第2東地域包括支援センター	実施している	地域住民主体の場（元気応援くらぶ等）の立ち上げの支援や地域のサロンと高齢者のマッチング等を実施している。	担い手を発掘することが難しい。		・気軽に立ち寄れる場所 ・相談や支援につながる機能 ・世代間交流ができる機会 ・趣味や学びの活動	・拠点となる場所が不足している ・担い手・人材不足 ・資金不足 ・世代間の関心やニーズの違い	サロンなどに顔を出して担い手がいなかや、活動を希望する人がいないか等の情報収集を行っている。
松戸市はつらつクラブ連合会	実施している	・職業訓練センターテクノ21にてシルバー人材センターとコラボしセンターまつりにて子どもと犬のタオル人形等の制作活動 ・おやこDE広場とのコラボで制作活動など実施している。	高齢化に伴う担い手不足	・シルバー人材センター ・おやこDE広場 ・聖徳大学	・気軽に立ち寄れる場所 ・世代間交流ができる機会	・担い手・人材不足	広報まつどやチラシの作成による周知など
松戸市おやこDE広場ネットワーク会議	実施している	・小中学校生や高齢者の方のボランティア ・中学校に出向いてふれあい体験会を実施	来てほしい方に声が届かない（周知不足）	流通経済大学のゼミのイベントに参加（ブースの出店・乳児の見守り） 流通経済大学 学生ボランティアと救命救急のイベント	・気軽に立ち寄れる場所 ・相談や支援につながる機能 ・世代間交流ができる機会 ・趣味や学びの活動 ・地域共生の観点から、地域や生活圏が異なる方を知る場を設けること	・拠点となる場所が不足している ・担い手・人材不足 ・資金不足 ・参加者の確保が難しい ・世代間の関心やニーズの違い	高齢になっても仕事をしている人も増え、人材不足・人材の高齢化に悩んでいる。 平日だからボランティアができるというようなわけでもない（時間がない）。 →とても難しい課題である コロナ禍前は地域で子育てをしようという講座を行っており、高齢者や民生委員にも参加してもらっていた。